

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 25 日

札幌市立 桑園小学校

1 今年度の重点目標

①家庭や地域とともにある学校づくり ②知・徳・体の調和のとれた育ち ③札幌らしい特色ある学校教育 ④子どもの発達への支援  
⑤信頼される学校の創造 ⑥教科等の枠組みを越えた教育 ⑦働き方改革

2 本年度の経営方針

基本理念「共に生きる力を育む学校文化の創造」  
目指す学校の姿(学校像)「”ひびきあい”のあふれる学校」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自立性 協同性	学年研修を通して、学年の子どもたちの課題を捉え、教材研究や子ども理解を深めながら、指導の在り方の共通理解を図り、学年みんなで子どもを育てていたか。	A	教職員のアンケートでは、「学年研修や児童理解交流会などを通して学校全体で子どもを育てていたか」という設問に対して肯定的な回答が100%であった。学年・学校が一体となって子どもたちを育てていく本校の文化を継続させていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良いと思います。</li> <li>・現状において、高い評価となっていることから、アンケートにおいては、より課題を把握できるよう視点を変えた設問も検討いただきたい。</li> </ul>				
人間尊重の教育	道徳教育 命を大切に する指導	道徳教育や特別な教科道徳、命を大切に する指導等を通して、お互いを大切 にする心の育成の充実が図られたか。	A	児童・保護者アンケートでは「お互いを大切に するやさしさの気持ちをもって行動して いますか」という設問に対して肯定的な 回答が約97%であった。今年度の取組を 継続し、お互いを大切にすることをさら に育てていく。	A	A
「学ぶ力」の育成	課題探究的な 学習 一人一台端末 家庭学習	子ども一人一人の「主体性」を大事に することや「つながり」を生むこと で、充実感や達成感をもつことができ る課題探究的な授業ができていたか。	A	授業実践を通して目指す子どもの姿を 「自ら学びを進める子」と設定し、研 究部が中心となって子どもたちの主体 性に焦点を当てて、授業改善を図った。 また、児童アンケートでは、「タブレ ットPC等のICTを効果的に使用して いますか」という設問に対して95%の 肯定的な回答があった。	A	A
「豊かな心」の育成	あいさつ 廊下歩行 清掃 いじめ防止	学級活動や児童会活動が連携して、子 ども発信による取組を中心として、規 範意識の定着を図るとともに、集団の 一員として、よりよい生活や望ましい 人間関係を築こうとする態度を養って いたか。	A	児童・保護者アンケートでは、「学校行事 やクラブ・委員会などの活動に協力を して取り組んでいるか」という設問に 対して90%以上の肯定的な回答があ った。次年度は異学年交流に力を入 れるために学年ごとに体育帽の色を 変えて、子どもたちが所属感を高め たり、異学年の取組のよさを感じたり できるように改善していく。	A	A
「健やかな体」の育成	体育科の授業 運動機会の創 出 健康指導	体育科において、生涯を通じて運動に 親しむための基礎を培うとともに、子 どもが主体的に運動に取り組もうと する態度を養っていたか。	A	児童委員会が中心となって休み時間 にボールを投げる活動を運営すること で、子どもたちが主体的に健康の増進 に取り組んでいた。また、教職員も マット・跳び箱月間を設定し、休み 時間にも子どもたちが器械運動に親 しむことができる取組を行った。次 年度も継続していく。	A	A
いじめ対策			A	児童・保護者ともに「安心して学校に 通うことができるか」という設問に 対して93%以上の肯定的な回答があ る。いじめ防止対策会議を定期的に行 い、組織として対応することができ ている。ただし、いじめはどこでも 起きうるということを常に念頭に置 き、一人一人の声に耳を傾け続け ていく。	A	A
一貫性・連続性のある 教育(小中一貫した教 育)	授業参観 研究授業 さっぽろっ子 サミット	陵北中学校区とのつながりを軸に、小 中連携のグランドデザインの具体化を 進め、向陵中学校、中央中学校との 連携にも反映できるようにしていたか。	B	教職員のアンケートでは、「校種間の 連携の強化について」の設問が他と 比べて低くなっている。また、児童 や保護者にパートナー校の取組が 広がっているとは言いがたい状況 である。次年度に向けて、さらに パートナー校でできることを洗い 出し、発信に力をいれることで、 一貫性のある教育の実現のために 尽力していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的にとっても良い。アンケートの「いいえ」の中に気付きがあるかもしれません。</li> <li>・小中相互の情報共有を含め、中学校との連携強化を図り、保護者にも見えるような形での取組を進めてほしい。</li> </ul>				
学校独自に 設定する分野	「いそむ時間」での読書活動、開放図書館との連携、保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ等を通して、読書に親しみ、生涯にわたる学びの基盤を養っていたか。		A	朝のいそむ時間で読書活動を行った。また月に一回、ボランティアさんによる読み聞かせは、子どもたちにとっても楽しみな活動であり、今後も継続していきたい。子どもたちが、更に本を好きになるように働きかけていきたい。	B	A
	子どもや保護者の困りや悩みについて、適切に理解し対応するために、校内学びの支援委員会やケース会議を随時開催するとともに、相談支援パートナーや巡回指導員、スクールカウンセラー等の関係機関を効果的に活用して助言をもらい、指導に生かしていたか。		A	子どもの困りや悩みについては、必ず職員間で情報を共有し、できるだけ迅速に対応できるように取り組んだ。また、様々な関係機関とも連携し、できる限り指導に生かすようにした。次年度も、子ども一人一人に寄り添い、安心して学校生活を送ることができるように関わっていく。	A	A
	登下校時における児童の安全確保について、家庭、地域ボランティア、スクールガードリーダー、関係機関等との連携を一層強化し、サポート体制を整備していたか。		A	関係機関と連携を図って、交通安全教室やSNSによるトラブルを防ぐ出前授業等、子どもの安全を守る取組を行った。次年度も継続して行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の学校に加え、地域との共有の場を今後も大切にしていきたいながら、学校づくりを進めていってほしい。</li> </ul>				